

介護の手

—暮らしを支える訪問看護—

高齢者が住み慣れた地域や自宅で安心して生活を続けられるよう、医療と介護の架け橋として重要な役割を担う訪問看護。今号では、訪問看護のサービス内容や現場で働くスタッフの声を紹介します。

地域包括ケア推進室 ☎ 66-1105

訪問看護とは？

住み慣れた自宅で生活を続けた
い。自宅での療養を希望する高齢
者は少なくありません。そんな思
いを支えるのが「訪問看護」です。
訪問看護は、身体介護や生活援助
を行う訪問介護とは異なり、看護
師などの医療スタッフが自宅を訪
問し、病状の観察、服薬管理、点
滴や床擦れのケア、リハビリ指導
などの医療的ケアを行えるのが特
徴です。また、介護方法の相談な
ど、本人だけでなくその家族のサ
ポートや在宅取りの援助も行い
ます。
本人や家族の思い・ライフスタ
イルを尊重して、生活の質が向上
できるよう、予防支援から看取り
まで行う訪問看護。今後、さら
に高齢化が進む中で、在宅医療や
介護サービスの中心的役割を果た
し、これまで以上にニーズが高
まっていくと考えられます。

利用者は？

病気や心身の障がいのため、療
養生活の支援を必要とする方や終
末期ケアを必要とする方が対象で
すが、あくまでかかりつけ医が訪
問看護の必要性を認めた方に限り
ます。医療保険や介護保険で利用
が可能です。利用者は乳幼児から
高齢者まで幅広く、高齢者の中
では要介護度（要支援度）が高くな
るにつれて訪問看護を利用する人
が増えています。認知度はまだ
まだ低いのが現状です。

市内における 訪問看護ステーションの認知状況

<令和4年度>

